

第116回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2019年4月8日(月) 14時～17時

兼題「燕」

- 川井素山 ○都会の巣探がす燕のパスワード
山水の池に鱒餌ふ峡の宿
春暁や碧きねむりの竹生島
花筏堰までつづく帯二筋
- 保井寶正 ○ひやひやと桜隠しの岨の風
新競技場何にを思ふぞ初燕
路地裏の漆黒塀に沈丁花
ひこぼえ
蕨の一輪のぞく岩尾根
- 佐久間喬 ○花冷えや待合の椅子浅く掛け
風強く空に切り込む初つばめ
春の宵酔いこちよく蕎麦を待つ
朧夜やまたたきて点く船あかり
- 丸山酔宵子 ○山門をくぐり燕は仁王門
咲き満ちてこぼれる桜二三片
青空を染めて眩しき朝桜
谷川の湯けむり飛ばし燕来る
- 菊地崇之 ○瞬くや軒の燕ぞ昭和なり
年金や目黒稲門新入学
鯛に鮓松健サンバ初桜
年金や気楽な稼業長閑なり
- 吉田啓悟 ○のどかなるものに赤べこ牛のかほ
つばめらの燕返しや暮れぬ空
利酒や友は佐保姫ごとくなり
ふらここにまたひとり来てゆれてをり
- 青木英林 ○あめんぼう自由気儘に軌跡描き
きつと来る燕待つのも恋心
風起こり水面に揺れる花影かな
花筏岩に小亀が甲羅干し

- 山本草風 ○中空に鳴き声おいて落雲雀
手裏剣を投げるがごとく燕飛ぶ
佐保姫の衣おちこち明野かな
蕎麦喰いて袖傘雨の春の街
- 渡辺鯨波 ○春の塵手塚治虫のベレー帽
就活の女子大生や初つばめ
鞍馬寺毘沙門天の御開帳
慈照寺の東司横切る
- 後藤克彦 ○春耕や畝ひと筋に力尽き
土筆坊背筋伸ばして見つけらる
満開の桜一本で人集む
初燕縦に横にと空を切る
- 永井正孝 ○軒深く忘れず来たりつばくらめ
友逝きて暮すすみたる花曇
ものの芽や枯れ木の股にほぐれけり
彼岸会の ^{たま}偶の顔ぶれ弾む声
- 金森純女 ○目刺し焼く夕暮れ長くなりけり
花筏動かぬままに日の落ちて
銀座にもつばめの巣あり青き空
春燈や師のあと歩く神楽坂
- 佐久間たか子 ○何か見ゆ地藏のほほに春の風
緊張の教室の窓花吹雪
校門の親子の夢に風光る
駅中のこつばめ強し電車行く
- 青葉ひかる ○散る里に燕来たりて頬に風
異国にて米兵の墓夕日燃え
ジェット機の飛び交う窓の雲の峰
海に散り熱き地に枯れし骨無念

次回「萩句会」

日時 2019年5月13日（月）14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『雪溪』一句
当季雑詠 三句